

<編集部にて>の訳

W: Helau, Alaaf (いずれも蘭肉祭のときのかけ声), マイアー君!

M: Hoorig!

W: えっ, 何て言ったの?

M: 「hoorig」って言ったんです。南ドイツにあるほくのふるさとは、ファストナハト(蘭肉祭は、おもにライラントでは「カーニヴァル」と呼ばれ、南西ドイツでは「ファッシング」あるいは「ファストナハト」と呼ばれる)のとき、そうかけ声をかけるんです。hoorig というのはもちろん方言で、標準ドイツ語では「haarig」(=毛むくじゃら)のこと。これは、ほくのふるさとジンゲンのファストナハトのマスケットである、毛むくじゃらのクマのことを暗に示してゐるんです。

W: とてもおもしろいわね。だって、今度は、あなたのふるさとのカーニヴァル、なしいはそこで呼ばれている言い方をすればファスネット(「ファストナハト」の方言)、あるいはファッシングについてルポルタージュしてほしいと思ってるの。取材には私もついていくわ。カーニヴァル、じゃなくてファッシングを現地ジンゲンで私に見せながら説明してちょうだい。

M: ああ、そうなんですか…、それは…、えっと…、いい考えですね!

W: ああ、本当にすばらしい晩だったわ。こんなに楽しんだのは久しぶりよ。ファッシングを見せてくれて、本当にありがとう。

M: そうですか? 気に入ってもらえました?

W: ええ、もちろん。パレードもすばらしかったし、色とりどりの衣装もすてきだったわ。それとあの、何て呼ぶのかしら、毛むくじゃらのクマたち、本当に私のことを人混みから引っぱり出して、一緒に行進していた車の中に閉じこめちゃったの。もちろんあとでまた解放してくれただけ。

M: ええ、ほくも編集長をみつけるまで1時間かかりましたよ。

W: でもまったく平気、とても楽しかったわ。みんなすごく上機嫌で、笑ったり、歌ったり…。それとあちこちで見られたすばらしい仮面や仮装。すてきだったわ! みんな本当にとても想像力豊かよね。ドラキュラに道化師、すごく恐ろしい魔女たちもいたわ!

M: ええ、まさに本物が生きてるみたいでしたね!

W: さらに晩になって市庁舎前広場で行われた、わら人形を燃やす儀式。あれはとて

も厳かだったわ。あんなにカトリック色の濃い地域で、あいう異教的な儀式が守られてるなんて、実際驚きよ。

M: そのとおりでですね。

W: さあ、あの炎が作用して冬がまもなく姿を消し、春に場所を明け渡してくれることを期待しましょう。

<雑誌記事>の訳

ファッシングおよびファストナハト

カーニヴァルは、けっして全ドイツ的な現象ではありません。伝統的にドイツには、カーニヴァルが祝われる中心地が二つあります。ひとつはライラントで、その中心はデュッセルドルフ、ケルンそしてマインツ。もうひとつは南西ドイツです。

両地域で異なった祭りの伝統が発展してきたわけですが、このことはとりわけ、「カーニヴァル」「ファストナハト」(あるいは方言で「ファスネット」)および「ファッシング」という異なった呼び名に反映しています。「カーニヴァル」という言葉を用いるのは、特にライラントにおいてです。南ドイツやオーストリアでは、この馬鹿騒ぎの祭りをファッシングおよびファストナハトと呼びます。

ファッシングの最も重要な祭りは、2月のファッシングの木曜からそれに続く火曜日まで催されます。その際、色とりどりの衣装を身につけ、騒々しい音楽を奏でたファッシングのパレードが繰り出します。他の催し物はホールの中で行われますが、ここではとりわけ愉快な演説、いわゆる「ビュッテレンレーデ」(「樽の演説」=カーニヴァルの際、樽の上で行われる演説)が行われます。その演説では、地方の名士、政治家や社会がからかわれるのです。

ドイツのカーニヴァルには、異教的、キリスト教的かつ地域的な伝統が存在します。が、主にそれは、冬を追い払うということ——だから騒々しい音楽が奏でられ、特別にうるさい楽器が演奏されるのです——、および灰の水曜日(四旬節の初日。死について考えさせ、改悛と懺悔のための印に、頭の上に灰を十字の形に置く)に始まるファステンツァイト(四旬節=断食期間:灰の水曜日から復活祭の前日までの日曜日を除く40日間)と関連しています。このファステンツァイトは、復活祭直前の土曜日であるカーナルザムターク(聖土曜日)まで続き、合わせて40日間に及びます。もちろん今日では、断食をする人はもうほとんどいません。(トーマス・マイアー)